

小さな素敵な旅 見~いつけたあ



去り行く深秋を惜しんでケヤキや桜の色づきから、本格的な紅葉が報じられている箱根方面にぶらり旅をしてきました。東名横浜町田ICから入り大井松田ICで降りて、しばらく78号線を走り、新聞でも報じられていた小田原市を訪れました。

秋を代表する花の1つ、菊の季節を迎えていました。小田原市久野の石材業鈴木三郎さん(71)方庭先ではざるをふせたような形をした「ざる菊」約600株が見ごろが少し過ぎていましたが無料開放しており、横浜などからの観光バスなど大勢の見物客でにぎわい、すっかり城下町の観光名所になっていました。

13年ほど前、鈴木さんの妻二三子さん(65)が、妹から苗をもらったのがきっかけで、毎年春に鈴木さんが挿し芽で育て、8年前から一般開放しているとのこと。

株は直径1メートルほどで、中には1.5メートル級もあり、直径2センチほどの小さな花が黄色のつぼみから白、紫色へと変化するのが特徴とのこと。1株で約4000個の花を付けているものもありそれは絢爛豪華な庭園風景でした。





最乗寺道了尊へ

この後少し足を延ばして、箱根外輪山の明神ヶ岳の中腹に立つ曹洞宗の古刹へ。大雄山線終点駅「大雄山」を經由して参道へマイカーを走らせる。途中仁王門を越え参道を登る。かなりの急勾配に差し掛かる。参道には樹齢400～500年の杉が立ち並び、荘厳な雰囲気漂う。圧倒される気持ちになる。車道両側には10,000株のアジサイが植えられ6月中旬から7月中旬の季節は特に見事と聞く。駅から10分ほど走ったところに駐車場がありここに駐車する。200メートルほど急勾配を上り更に石段を上り詰めると本堂が正面にあった。石段上りはTR講習会で研鑽した「なんばあるき」の実践だった。結構楽に早く登れた。境内には多くの建物が建立されていて、その規模の大きさに圧倒してしまった。奥の院まではとても無理であると観念して下山。途中の茶店で昼食の「トロロ定食」を注文。麦飯に昔懐かしい山芋をかけたの味わいは60数年がタイムスリップしたような気持ちになった。麦飯がこんなに美味しいとはとても複雑な昼食だった。



里山の風景はすばらしかった

最乗寺から 20 分ほど走ったところに「足柄ふれあいの村」経由でとても素朴な「里山の秋」を見つけました。昔といってもつい 30 数年前の田舎は何処もこんな風景が当たり前だったと記憶しますが、いわゆる市街地からは想像が出来ない素晴らしい景色がありました。遠方に足柄盆地を望み天空が果てしなく高く、色とりどりの菊が咲き清流に鯉が泳ぎ静寂の世界があった。

足柄地区にはこのほかにも沢山のスポットがありますので、次回も是非訪問してみたいと思っています。

旅人 水島 秀夫